

令和2年度 決算報告

特別会計の状況

4つの特別会計の各決算額は次のとおりです。

特別会計区分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額
国民健康保険事業	35億6,727万3千円	35億4,510万4千円	2,216万9千円
財産区	13億4,768万4千円	2,202万 円	13億2,566万4千円
介護保険事業	27億5,225万2千円	26億3,460万8千円	1億1,764万4千円
後期高齢者医療事業	5億 431万3千円	4億8,678万9千円	1,752万4千円
(合計)	81億7,152万2千円	66億8,852万1千円	14億8,300万1千円

令和2年度の 財政健全化判断比率・資金不足比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により地方公共団体は、毎年度、実質的な赤字や外郭団体を含めた実質的な将来負担などに係る指標（「健全化判断比率」）と公営企業ごとの資金不足率（「資金不足比率」）を公表しています。

(単位：%)

	健全化判断比率【播磨町】	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	14.01	20.00
連結実質赤字比率	—	19.01	30.00
実質公債費比率	▲0.1	25.0	35.0
将来負担比率	—	350.0	

※赤字額がない場合、実質赤字比率と連結実質赤字比率は「—」と表示します。
※将来負担比率については、算定されない場合「—」と表示します。

(単位：%)

	資金不足比率【播磨町】	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.00
下水道事業会計	—	20.00

※資金不足が生じない場合は「—」と表示します。

健全化判断比率における各指標について

『実質赤字比率』とは…

福祉、教育、まちづくりなどを行う地方公共団体の一般会計などの財源の規模と比較して指標化し、財政運営の深刻度を示すものです。

本町の場合は、実質収支は7.0億円（9.9%）の黒字となるため、実質赤字比率は「—」と表示されます。

『連結実質赤字比率』とは…

播磨町には、一般会計のほかに国民健康保険事業特別会計など3つの特別会計（財産区除く）と水道事業会計・下水道事業会計があります。その全ての会計の赤字や黒字を合算し、その団体全体の資金の不足の程度を把握するため、町税などの財源の規模と比較して指標化し、地方公共団体全体としての運営の深刻度を示すものです。

本町の場合は、連結実質収支は20.4億円（28.7%）の黒字となるため、連結実質赤字比率は「—」と表示されます。

『実質公債費比率』とは…

借入金の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すものです。

本町の場合は、実質公債費比率は▲0.1%となり、前年度と比較して、0.1ポイント減少しており、早期健全化基準を大幅に下回っています。

『将来負担比率』とは…

地方公共団体の一般会計の借入金（町債）や将来支払っていく可能性のある負担などの現時点での残高の程度を指標化し、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すものです。

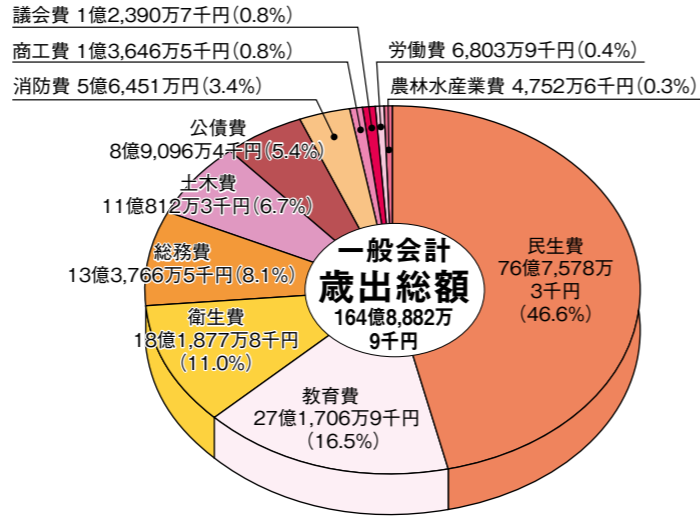
本町の場合は、将来負担比率は▲86.8%となり、将来負担額が算定されないため「—」と表示されます。

『資金不足比率』とは…

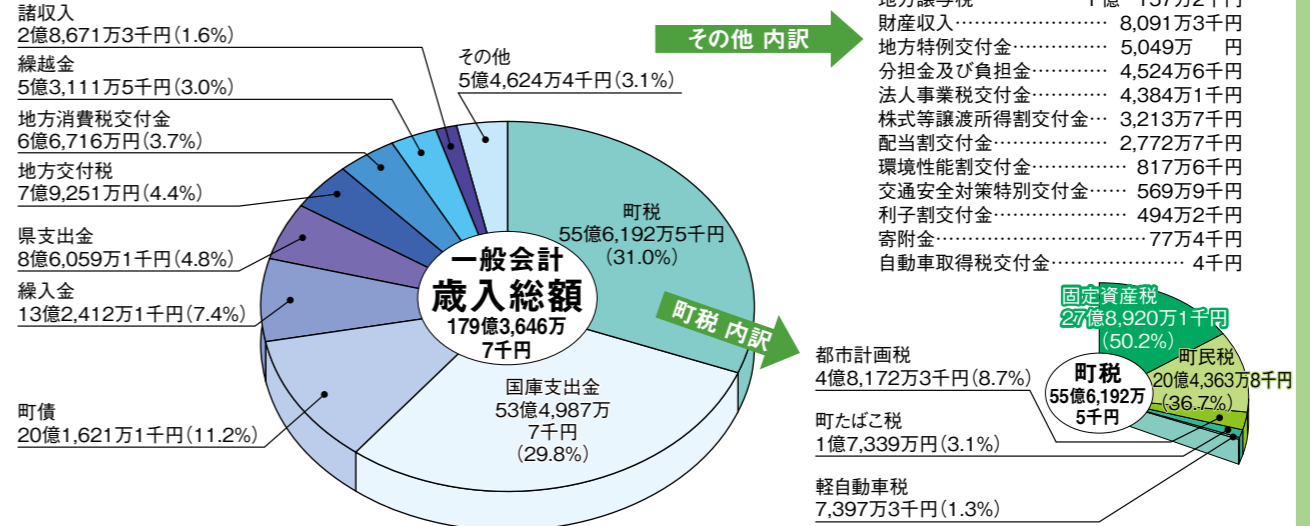
公営企業の資金不足を、公営企業の財政規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示すものです。

本町の場合は、水道事業、下水道事業がこの比率の対象となりますが、いずれも資金不足は発生しませんでした。

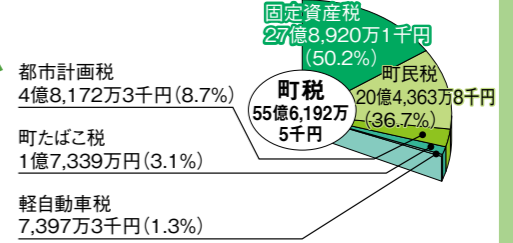
歳出総額 164億8,882万9千円



歳入総額 179億3,646万7千円



使用料及び手数料…… 1億4,472万3千円
 地方譲与税…… 1億 157万2千円
 財産収入…… 8,091万3千円
 地方特例交付金…… 5,049万 円
 分担金及び負担金…… 4,524万6千円
 法人事業税交付金…… 4,384万1千円
 株式等譲渡所得割交付金…… 3,213万7千円
 配当割交付金…… 2,772万7千円
 環境性能割交付金…… 817万6千円
 交通安全対策特別交付金…… 569万9千円
 利子割交付金…… 494万2千円
 寄附金…… 77万4千円
 自動車取得税交付金…… 4千円



都市計画税 4億8,172万3千円(8.7%)
 町たばこ税 1億7,339万円(3.1%)
 軽自動車税 7,397万3千円(1.3%)

皆さんが納めた税金や国・県からの補助金は私たちの生活をより良くするためにいろいろな形で使われています。今回は、令和2年度決算についてお知らせします。

▼問合せ 総務グループ ☎079(435)0357

「年度」と「決算」

会計は、4月から翌年3月までの「年度」で区切られています。「決算」は、その年度においてどれだけの収入があり（歳入）、それがどのように使われたのか（歳出）を分類して集計したものです。

会計の仕組み

播磨町の会計は、大きく分けて住民の生活に最も関わりの深い「一般会計」と特定の収入を基に特定の事業を行う「特別会計」とに分けられます。

一般会計では、皆さまから納められた税金や国や県からの補助金が主な収入で、道路や施設の整備、教育や福祉事業などの住民サービスに使うお金は、この会計から支払います。

特別会計は、その目的の事業にのみお金が使われ、播磨町では、国民健康保険、財産区、介護保険、後期高齢者医療の4つの特別会計があります。

一般会計の決算

令和2年度の一般会計の決算額は、歳入（収入）が179億3646万7千円、歳出（支出）が164億8882万9千円で、差し引き14億4763万8千円となり、これから翌年度（令和3年度）へ持ち越す7億4574万円を除くと、実質7億189万8千円の黒字となりました。

歳入

歳入については、総額179億3646万7千円で、前年度に比べて57億1357万円、46.7%の増となりました。このうち、皆さまから納めていただいた町税（町民税・固定資産税・軽自動車税・町たばこ税・都市計画税）は、55億6192万5千円で、前年度に比べて162万5千円、0.2%の減となりました。その内訳は、固定資産税で約2700万円の減、法人町民税で約1600万円の減となったことによりです。

町の貯金でもある基金からの繰入金は13億2412万1千円

歳出

歳出は、総額164億8882万9千円で、前年度に比べて53億9704万7千円、48.7%の増となりました。

この中で、最も支出の多かったのは「民生費」で76億7578万3千円、全体の46.6%を占め、特別定額給付金事業や障がい者、高齢者などの社会福祉事業に約58億8700万円、乳幼児などの医療費の助成や保育所などの運営に加え、児童手当の支給経費などの児童福祉事業に約17億8900万円を支出しました。

次に多いのが「教育費」で27億1706万9千円、全体の16.5%を占めています。小・中学校関係に約18億1800万円、幼稚園関係に約1億9000万円、公民館・コミセン・図書館などの運営や人権教育の充実など社会教育関係に約2億5400万円、そしてスポーツ施設関係に約5300万円を支出しました。

「衛生費」は18億1877万8千円で全体の11.0%を占め、保健推進や母子保健、予防接種などの保健衛生費として約4億1300万円、2市2町広域ごみ処理施設の建設、また塵芥処

です。そのうち一般会計の歳入不足を補う財政調整基金からの繰入金は、6億208万8千円で、前年度に比べて約1億円の増となりました。この財政調整基金の令和2年度末の残高は、約28億6500万円となりました。

地方交付税は、7億9251万円で、約1億1900万円の増です。これは、前年度に比べて普通交付税が約1億1500万円の増、特別交付税が約400万円の増となったことによるものです。

町債（町の借金）については、20億1621万1千円で、約10億7700万円の増となっています。これは、義務教育施設の整備に伴う起債で約5億2000万円の増、広域ごみ処理施設の建設に伴う起債で約4億9000万円の増となったことが主な要因で、令和2年度末の町債残高は、約104億3000万円となりました。

理やし尿処理などの清掃費に約14億600万円を支出しました。

「総務費」は、13億3766万5千円、全体の8.1%を占め、町の全般的な管理事務経費である総務管理費に約10億9500万円、税の賦課徴収などの事務経費の徴税費に約1億600万円を支出しました。

借金の返済にあたる「公債費」については、8億9096万4千円で全体の5.4%を占め、これまでに借り入れた臨時財政対策債や、各種施設の建設・改修に借り入れたお金の返済に使いました。

用語解説 <歳入> 町税…所得にかかる町民税や土地・建物に係る固定資産税など 国庫支出金、県支出金…事業を行うための国や県からの負担金や補助金 町債…事業を行うために借入れたお金 繰入金…各種基金（預金）から一般会計へ繰り入れたお金 <歳出> 民生費…高齢者や障がい者、児童のための福祉など 総務費…財産管理や企画・税務事務など 教育費…学校や公民館の維持管理など 土木費…道路や公園の維持管理など 衛生費…ごみ・し尿処理や予防接種など 公債費…町債（借入金）の返済など 消防費…消火・水防活動など 議会費…議会の運営など 農林水産業費…農業・水産業の振興など 労働費…労働者への福利厚生など 商工費…産業の振興や観光など